

今回の特集は内視鏡外科の Basics ということで、内容は今後の内視鏡外科手術の発展につながる興味深いものばかりである。ちょうどこの編集後記を書く2週間ほど前に、内視鏡外科関係の国際会議に出席したので、その印象をここに記してみたい。

参加した学会は今年10月16日から21日までドイツのハノーバーで開催された World Congress of High-Tech Medicine であった。学会の内容は21世紀を迎えるにあたり、今後 high technology をどのように応用、展開していくかについて、いろいろな分野の研究者を一堂に集めての討議であった。内視鏡下手術、特に腹腔鏡に関係したものが多く、日本からも数人の先生方が演者として参加しておられた。内視鏡下手術や消化管手術を対象としたビデオカンファレンスは、現地手術室との衛星中継によるライブデモで大変ユニークな試みと思われた。わが国のいくつかの施設もこれに参加しており、高度な技術のノウハウを映像で披露していた。一方 basic な研究発表も各セッションごとにみられ、特にポート孔再発（いわゆる port tumor）に関する研究発表は今後の進展に興味をもたれた。また、内視鏡関係企業からの演題発表も多く、特にシュトルツやオリンパス

などから近未来の手術室 unit の映像が提出され、多くの聴衆の関心をひいていた。過去、伝統的に医療工学関係で世界をリードしてきたドイツであったが、米国との臨床面での大きな差を埋めるべく、この分野に力を入れるドイツの意気込みの強さを感じさせられた。

私が専門とする胸腔鏡関係のセッションは大変少なく、学会半ばに組まれていた VATS Experience にも演者、司会者の欠席が目立ち、日本から参加していた加勢田先生（神奈川済生会病院）が急遽司会者の代理をさせられるというハプニングがあった。

また、当地ではちょうど万国博覧会が開催されていたが、入場者が全体的に少なく不入りが話題となっていた。足を運ばれた先生の話聞いても、わざわざ見に行くだけの価値はないとのことであり、私は市内観光に落ち着いた。特に第2次大戦で徹底的に破壊された市の中心部に立つ教会の遺跡には心打られた。なかに吊るされた日本製の鐘には、故吉田茂首相による平和という文字が刻まれていたが、ハノーバーは広島市と姉妹都市の関係を結んでおり、悲惨な体験を子々孫々に熱心に伝えているようであった。

もう1つの観光の目玉ともいえるべき great garden（グローセル・ガルセン）は広大ですばらしい人工美の庭園であった。春には美しい花々が咲き乱れているとのこと、ぜひ再度この庭を訪れてみたいと思いつつハノーバーをあとにした。

（白日高歩）

日本内視鏡外科学会雑誌（第5巻 第6号）2000年12月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価：会員には毎号送付されます。その他については、1部定価（本体2,600円＋税）（配送料110円）となります。

2000年 年ぎめ予約購読料：16,380円（配送料：医学書院負担）

編集・発行：日本内視鏡外科学会（代表：出月康夫）

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 （財）日本学会事務センター内

（☎03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当：高柳）<http://www.mic.med.tohoku.ac.jp/jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku,

Tokyo, 113-8622, Japan

©2000, Printed in Japan

発売：（株）医学書院（代表：金原 優）（本誌担当：阿野、中田）<http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3（振替口座 00170-9-96693 番）

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707（Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp）

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660（Fax 03-3815-7804）

印刷所 横山印刷（株）☎03-3622-6161（Fax 03-3625-1591）

広告申込所 （株）文栄社 ☎03-3814-8541（Fax 03-3816-0415）

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。